

# 会 議 録

## 1 会議名

令和7年度 第5回中郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### （1）報告（公開）

なし

### （2）協議（公開）

- ・自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
- ・令和7年度の視察研修について
- ・その他

## 3 開催日時

令和7年8月25日（月） 午後6時30分から午後7時35分まで

## 4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

## 5 傍聴人の数

報道0名 傍聴1名

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、松岡委員、村越委員、陸川委員、欠席2名
- ・事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、早川税・市民生活班長、平原教育・文化班長

## 8 発言の内容（要旨）

### 【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

### 【竹内会長】

7月の終業式から始まった「こ食」事業について、8月20日（水）に全5回の日程が終了した。最終日は47名の子どもが参加した。委員の皆さんにも、手伝いとして参加していただいたり現場を見てもらったりした。現在、子どもと保護者からのアンケートを集約中で、夏休み期間中1日でも子どもの居場所があること、送迎があることがありがたいという言葉をいただいている。食事面についても、普段家で食べないものを食べたなど、前向きな意見があった。子どもたちからは、もっと勉強の時間を増やしてほしいという声があった。また次年度に向けて企画を始めているので、皆さんからもご協力をお願いします。

会議録の確認を松岡委員と村越委員に依頼。

本日の報告事項はなし。

それでは、協議に移る。(1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料 No. 1 の説明を求める。

### 【桐山班長】

資料 No. 1 を基に説明。

7月の利用者数は過去最高の159名であった。また、8月2日（土）に開催された「なかごう夏まつり 2025」で試験的に臨時運行を実施し、4件の利用があった。今後も、バスの運行がない時間帯に実施するイベントがある場合は、臨時運行を実施する予定。

### 【竹内会長】

前回の地域協議会では、高橋委員に「さくら号」の乗車体験の感想を話していただいた。「さくら号」の乗車体験をした委員はいるか。(なし) また、時間があるときに乗車体験いただければと思う。

続いて、令和7年度の「子どもの い～場所開設事業」について、事務局に資料 No. 2 の説明を求める。

### 【桐山班長】

資料 No. 2 を基に説明。

先回の地域協議会の中で意見が出た、子ども向けのチラシとスタンプカードを作成した。

8月27日（水）に中学校保護者へ、28日（木）に小学校保護者へ学校のメール配信システムを利用してチラシを配布する。また、28日（木）の小学校始業式の際に、まちづくり振興会から子どもたちへ参加案内を行うように調整中。

**【竹内会長】**

まちづくり振興会と事務局で相談して日程を確定した。開設場所は、片貝縄文資料館、中郷総合体育館、中郷コミュニティプラザの3ヵ所を中心とする予定になっている。前回の地域協議会で意見が出た子ども向けの周知ということも考慮しながら、できるだけ多くの子どもたちが参加してもらえるようになっているので、8月28日（木）の小学生への説明をお願いしたい。

**【陸川委員】**

下校時間が早い時もあるので、チラシに開始時間を記載してはどうか。

**【更山主事】**

開始時間を追加したチラシを作成するので、ご確認いただきたい。

**【松岡委員】**

子ども向けのスタンプカードは、カラーで印刷してはどうか。

**【更山主事】**

印刷は、まちづくり振興会が行う予定。まちづくり振興会で対応可能であればカラーで印刷する。

**【陸川委員】**

カラーで印刷する。

**【竹内会長】**

スタンプカードは、厚紙で印刷してはどうか。

**【陸川委員】**

検討する。

**【桐山委員】**

スタンプではなく、塗り絵にするのも良いと思う。

**【陸川委員】**

昨年度、保護者が参加申込みをしたかどうか確認する手段がないという課題があったため、保護者が子どもと一緒に申込みした日を確認できるようにスタンプ

カードを作成した。ラジオ体操のカードのように使えればよいという思いがあり、スタンプカードを利用することとした。

## 【竹内会長】

9月25日（木）から開始ということで、皆さんの中から見守りの応援が可能な方がいれば、ご協力をお願いします。

い～場所開設事業については、次年度の地域独自の予算へ継続事業として提出させていただくので、毎回参加者の声や課題を地域協議会へ共有いただきたい。

続いて、(2) 新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」についての協議に移る。事前に配布した資料 No. 3 を見ながら、前回の協議内容について振り返らせていただく。

前回の協議の中で、若手メンバーでプロジェクトチームを立ち上げてほしいという意見が出ていたため、8月18日（月）に会長、副会長、桐山委員、村越委員の4名で協議を行った。

目指す方向性は大きく2つあり、1つ目は、中郷区から転出する若者を対象に、中郷区とのつながりを持ち続けられる仕組み作りを目指すこと。つながりを持つ方法の案としては、中学卒業時に中郷区とのつながりが持てるネット上での仕組みを案内していきたいと考えている。中学を卒業し、高校へ入学するとそこから先の進路や就職が読めない部分があるので、中学卒業時に中郷区とのつながりを持ち続けられることが大切だと思っている。ネット上では、中郷区在住者と転出者など、中郷区にゆかりのある人がつながりを持てる場としたい。ネット上の不特定多数とのつながりを求めるわけではないことをご理解いただきたい。

2つ目は、中郷区在住者からの情報を多くするために、発信者を増やすこと。また、発信した情報が転出した中郷区出身者に届くこと、その反応が確認できることを目指したい。希望としては、転出者のつながりによってコミュニティが広がっていくことに期待したいと考えている。

インターネットというと、これまではホームページなどが主流であったが、情報が一方通行とならないように、さとまる学校ではインスタグラム等を活用して中郷区にゆかりがある人、中郷区に興味がある人が地域情報をキャッチできるような手法を使っている。先日、SNSの講習会に参加した際にも、つながりを持つにはインスタグラム等のSNSが有効であるという話を聞いた。まず基本的なホームページやポータルサイトは必要だと思うので、若者が情報をキャッチできるような仕組みの追及を目標としたい。

また、課題として、管理方法の仕組みや有効な手段、管理者、必要経費などは専門家からのアドバイスが必要であること。その他にも、継続方法、拡散方法、維持・発展の仕組み、若者にとっての気軽な利用方法は何かなど、多くの課題が出てきた。村越委員から8月18日（月）の協議の中で、専門家との勉強会を開いたらどうかという意見があった。

8月20日（水）に、中郷区出身で東京でウェブ関連会社を起業した高波力也氏と Zoom 会議を実施した。今後も高波氏と Zoom や LINE グループを利用し、どの情報発信ツールが有効的か提案いただきながら地域独自の予算事業への提案に向けて進めていきたい。スケジュールがタイトなため、来年度の提案は見送る可能性がある。

#### 【陸川副会長】

知識不足の中で移住定住について、もやもやと考えていくよりも、専門家を交えて整理しながら話し合いを行った方がよいと思うので、専門家の話を聞くことは大事だと思った。

#### 【村越委員】

我々は中郷区についてよく知っているという強みもあると思うが、それを具体化していくためには専門家の意見を聞きながら進めていくのが良いと思う。

#### 【桐山委員】

8月20日（水）の Zoom 会議で、今はホームページだけでは見に来てくれる人が少なく、たくさん見てもらうならインスタグラム等の SNS を活用するのがよいという意見を聞いた。中郷区のオリジナルアプリの開発についても話を聞き、費用が高額になり、既存の地域コミュニティアプリを利用すれば費用を抑えられるとのことだった。8月20日（水）だけでは、整理しきれなかった部分もあるので、これからすり合わせをしていきたい。まずは、ホームページの作成が必要になると思うので、そこから肉付けしていけば中郷区らしくなるのではないかと思う。

#### 【竹内会長】

会長、副会長、桐山委員、村越委員の4名で「い〜住プロジェクト」のチームを組んでスタートしたが、地域協議会委員以外の人材もチームメンバーの候補者として挙がっているので、一緒にプロジェクトを進めていきたい。松岡委員にもメンバーに加わっていただきたい。これから、地域協議会として何をしたいか考えを固めていきたいと思うので、ご協力いただきたい。Zoom 会議については、事後報告になってしまうが情報共有させていただく。

本日欠席の鹿島委員から意見をいただいているので紹介する。

プロジェクトの体制については、ウェブ班、資源調査班など「い〜住プロジェクト」を進めるための必要なグループを決められれば良い。

移住に関する資源については、空き家や移住に活用できる土地がどれくらいあるのか調査を行う。

ホームページについては、SNS からの案内ができるようになると周知が早まると思う。中郷区出身のウェブ関連の専門家に依頼する意見に賛成する。

参考となる取組みについて、9月20日（土）～21日（日）に「ふるさと回帰フェア」という国内最大級の移住イベントが東京国際フォーラムで開催される。新潟県では、新潟U・Iターン総合サイト「にいがた暮らし」、上越市では「住もっさ上越」「移住促進諏訪の会（諏訪地区）」など、妙高市では「移住定住」があった。

鹿島委員からの意見にあった、空き家や活用できる土地については、近藤総務班長から調査いただいております、さとまる学校との定例会の際に情報共有している。また、9月にさとまる学校と「移住促進諏訪の会」が意見交換を行う予定なので、新たな情報があれば皆さんに共有させていただく。

以上が「い～住プロジェクト」の協議内容の振り返りとなるが、各委員から意見等はあるか。

#### 【尾崎委員】

若い人たちの力を借りながら進めていければよいと思う。

#### 【高橋委員】

可能であれば、決まったことだけでもよいので書面でまとめて報告いただきたい。プロジェクトメンバーに事務局は入っているのか。

#### 【竹内会長】

桐山班長と更山主事がメンバーに入っている。

#### 【高橋委員】

そうであれば、事務局で文書にまとめてもらい、皆さんで共有できるとよい。また、月にどのくらいのペースで行うのか計画を立てると、プロジェクトがより進んでいくのではないかと思います。

#### 【竹内会長】

高橋委員からの意見のとおり、口頭のみだと記憶に残らないことが考えられるので、文書でまとめて配布させていただく。

頻度については、月2回くらいで実施できればと思う。

今後の協議の進め方について、事務局から提案がある。説明願いたい。

#### 【桐山班長】

令和5年度に上越市創造行政研究所が主催で、市内各地区の持続可能なまちづくりを推進するため、大島・浦川原・牧の3区をモデル地区に設定し、総合事務所とともに定住戦略を検討するための住民ワークショップや成果発表会を開催した。その時の資料を基に、地域協議会でワークショップを行うのはどうか。

参考資料「大島・浦川原、牧区 地区別まちづくりワークショップ成果発表会」を基に説明。

このワークショップを実施することで、「い～住プロジェクト」について、短期的に何をするか、長期的に何をするか、皆さんの意識が揃うのではないかと考えている。

**【高橋委員】**

上越市創造行政研究所の所長から講演いただくことは可能なのか。

**【桐山班長】**

8月19日（火）に板倉区地域協議会が地域フォーラムという形で、このワークショップを開始した。その前段として、上越市創造行政研究所の藤山所長が講演を行った。

**【高橋委員】**

板倉区の地域フォーラムについては、新聞で拝見して良いなと思っていた。上越市創造行政研究所の力を借りて勉強する機会を設けることはとても良いと感じる。

**【竹内委員】**

まずは情報発信して中郷区を知ってもらってから進めていく必要がある。ヤングチームとベテランチームで考える視点が異なるのが面白い。研修会等で他の地区の話聞くことができればよいと思う。

大島・浦川原・牧区はワークショップ後も取組みを継続しているのか。

**【桐山班長】**

大島区では令和6年7月にプロジェクト会議が立ち上がり、情報発信について協議を行っている。牧区では、ワークショップで来年度取り組む内容として新組織を立ち上げる案が出ており、実際に「まきにいる」という組織が立ち上がり、棚田のライトアップや夜マルシェなどのイベントを開催している。

**【竹内会長】**

事務局から提案のあったとおり、今後の協議を進めていくためのひとつのコンテンツとして、まちづくりワークショップを行うということで調整してよいか。  
(異議なし)

中郷区の場合は、すでに「い～住プロジェクト」のチームが立ち上がっており、情報発信に向けて動いていくという土台となるテーマがあるので、そこを中心に皆さんと意識をそろえることができるように、上越市創造行政研究所にお願いしようと思う。

引き続き、(3) 令和7年度の視察研修について話をさせていただく。

高橋委員から、無理に遠方へ視察はせずに中郷区内で勉強をした方がよいという意見をいただいた。皆さんお忙しい中で時間の調整も難しいと感じている。事

務局から提案のあったワークショップについても回数を重ねないと意味がないと思う。ワークショップや上越市創造行政研究所の講演、専門家を交えた勉強会を実施していきたいと考えているがどうか。視察研修について、他に提案がある場合は相談いただければと思う。

ワークショップは、地域協議会の場を使って実施していくが、上越市創造行政研究所と日程調整を行うため、通常の前4月曜日の開催ではなくなる可能性がある。今後のスケジュールが決まったら連絡させていただく。

#### 【桐山班長】

上越市創造行政研究所には、本日の地域協議会で委員の皆さんからの同意が得られれば、ワークショップを開催したい旨を伝えている。ワークショップを行う前に藤山所長から中郷区の人口状況や全国の好事例等の話を伺った方が良いと思うので、事務局で日程調整させていただく。ワークショップの進め方については、事務局職員が事前に学び、進行するため、日程はある程度自由に組める。

#### 【高橋委員】

先ほど会長から話のあった、視察研修についての希望がある委員の報告期限を決めたらどうか。

#### 【竹内会長】

視察研修について要望がある委員は、9月20日までにご連絡いただきたい。

第3回地域協議会にて「小中学校の存続」の話が出ていた。さとまる学校として参加している青少年育成会議で、牧区の統合について3年前から話を始めている。中郷区も「い～住プロジェクト」が完成した時に、学校が存続していることがイメージにないと本末転倒になってしまう。学校の統合に関して、市の考え方や今後の流れ、我々はどう動くべきかを事務局と相談していきたい。9月5日(金)のCS委員会でも議題としてあがる予定なので、学校側の意見も聞いていきたい。皆さんからも個人的に意見を伺うことがあるかもしれないので、ご承知おきいただきたい。

以上で、本日の協議を終了とする。

その他委員、事務局から発言はないか。

#### 【竹内委員】

8月31日(日)に、さとまるスポーツ体験会を開催し、皆さんからも役員としてご協力いただく予定。中学校2年生は、モルックを担当する。役員の皆さんも参加できるのでぜひよろしくお願ひしたい。

#### 【竹内会長】

8月26日(火)に、小学校の職員が中郷区について勉強会を行う。職員がもっと地域について知りたいということで校長と教頭から提案があり、さとまる学校

が連絡調整を行った。半日かけて中郷区を巡回する予定。皆さんの方からもそういう機会が必要ということがあれば相談いただきたい。

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

## 9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。